

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 1 学ぶ喜び、わかる喜び、達成感を味わわせ生涯にわたって学び続ける態度を育成する
- 2 自分を大切にするとともに他の人も大切にすることを育成する
- 3 将来の生き方やあり方を見つめ、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する
- 4 生徒と会話する力を教職員がより高め、生徒が話をしたい、相談したいと思える学校(心の居場所)づくりを行う

## 2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
  - (1) 「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取り組み
    - ア わかる授業の推進と基礎学力の定着
      - ・生徒の学力差の幅が大きい本校の状況に対応した、わかる授業や基礎学力定着のための教育課程の改善と教員全体の授業力の向上。
      - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率(平成28年度は65%)を平成31年度には70%にする。
    - イ 授業アンケートや学校教育自己診断を活用した授業改善の推進
      - ・授業アンケートや学校教育自己診断を活用し生徒や保護者のニーズを分析して各教科の授業改善を推進する。
      - ※教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率(平成28年度91%)を平成31年度まで80%を維持する。
    - ウ ICTを活用した研究授業による授業改善の推進
      - ・生徒の興味・関心を示す一つとしてICT機器等を活用した授業数の増加とその研究授業による教員の授業力の向上に努める。
      - ※教員向け学校教育自己診断の項目「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定率(平成28年度67%)を平成31年度には70%以上にする。
    - エ 校内検定大会や資格取得の奨励と支援
      - ・生徒の勉強意欲が向上するための校内検定大会を実施するとともに資格取得による充実感を支援する。
      - ※専門高校の特色を生かし、組織として資格取得に向けた支援体制を充実させるとともに、校内検定大会(教養科目)の実施による生徒のモチベーションアップを図る。
      - また、資格取得に挑戦する生徒の増員とその合格率(平成28年度64%)を平成31年度には70%にする。
  - (2) 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立
    - (1) 社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。
      - ア キャリア教育の実施
        - ・通用門でのあいさつ運動、地域での清掃活動や地域との交流などを通して社会人としてのマナーや規範意識を養う。
        - ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内研修の充実を図る。
        - ・系統立てたキャリア教育計画を再構築するとともに総合的な学習の時間やホームルール活動を活用した道徳や・人権等の指導計画の充実を図る。
        - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率(平成28年度は75%)を平成31年度でも75%を維持する。
        - ※卒業時の進路未決定生徒、毎年0人をめざす。
    - (2) 出身中学校との連携による中途退学・長期欠席の防止および原級留置の減少
      - ア 不登校生徒への働きかけや保護者との連携強化
        - ・出身中学校、前籍校との連携および懇談、家庭訪問等による共有した情報に基づき、生徒と寄り添い、その生徒の出席率の増加を図る。
        - ・「教科指導」=「生徒指導」という認識で授業にのぞむ。
        - ※すべての新入生について、出身中学校を訪問する。編転入生については前籍校と連携する。生徒指導的中学校訪問数(平成28年度42回)程度を平成31年度まで維持する。
        - ※当年度、新入学生の進級率50%以上を維持する。
        - ※出席率、平均65%をめざす。
- 3 安全安心で魅力ある学校づくり
  - (1) 生徒の居場所づくりと個々の生徒への支援体制の強化
    - ア 教育相談体制の確立
      - ・生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との人間関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。
      - ・ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図り、統一した生徒指導・支援方法を行う。
      - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率(平成28年度は67%)を平成31年度には70%以上にする。
    - イ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用
      - ・支援コーディネーターを中心にSC及びSSW、教職員、保護者(生徒)との3者(4者)が有機的に連携協力できる体制づくり。
      - ・支援教育やコミュニケーション能力を育成する外部人材の活用および校外研修への参加
      - ※教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率(平成28年度は57%)を平成31年度には65%以上にする。
      - ※教員向けの外部研修に参加させる人数(平成28年度述べ35人)を平成31年度まで維持する。
    - ウ 交通安全や薬物乱用防止、防災・防犯教育の充実を図る。
      - ・地域の公的機関等の外部人材を活用した生徒への研修や講義を実施する。
      - ※警察や消防署、区役所等との連携を年3回実施する。
  - (2) 特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上
    - ア 部活動の活性化に向けた取り組みの推進
      - ・部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動の集団行動の意義を理解させる。
    - イ 体育大会や文化祭等の行事の活性化
      - ・行事等を通して、自主自立の精神を養うとともに達成感を持つことにより、自己肯定感を高める。
      - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率(平成28年度は64%)を平成31年度には65%以上とする。
      - ※生徒向け学校教育自己診断の項目「参加しようと思うクラブがある。」の肯定率(平成28年度は60%)を平成31年度には65%以上とする。
  - (3) 学校運営上で必要な情報共有を図るための連絡会等を適宜設け、トラブルの未然防止や早期発見、苦情等の早期対応を全教員で共有し実践する。
    - ア 教員間の意思疎通を高め、活発な議論を行うための連絡会議等を実施し、学校運営上必要な情報共有を図るとともに早期発見や早期対応を実践する。
    - ※教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議をはじめ各種会議が教員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」の肯定率(平成28年度は47.4%)を平成31年度には、60%以上とする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業内容はわかりやすい」65.4%→68.2%、「コンピュータ等のICT機器が…」66.7%→85.0%</li> <li>授業評価「授業を受けて知識や技術が身についたと感じている」3.25→3.42</li> <li>※ICT機器を増やしたことで複数の教科で機器を活用した授業ができるようになり、生徒の授業が分かりやすいなどのポイントが増加している。より多くの教科・授業で活用できるよう機器の充実に努めていきたい。</li> </ul> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生と話がしやすい」71.2%→81.8%、「悩みや相談にのってくれる先生がいる」67.3%→75.0%、「先生はいじめ・暴力…」44.2%→75.0%、「学校生活について…」65.4%→72.7%、「将来の進路や…」67.3%→75.0%</li> <li>※先生と話がしやすいなど学校が『生徒の居場所』となっていることで、生徒自身が悩みや進路について考えるようになり、積極的に話をするようになったと考えられる。今後も『心の居場所』づくりの充実を図りたい。</li> </ul> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「職員会議、連絡会、情報共有会議…」47.6%→60.0%、「日々の教育活動における問題意識や悩み…」66.7%→70.0%、「各分掌や各学年間の連携…」47.6%→80.0%</li> <li>・「この学校の行事に参加したことがある」75.0%→70.0%、「学校は、… 情報提供している」55.0→40.0%</li> <li>※情報共有の重要性、教員間の意思疎通が高くなったことで、分掌や学年、教員間での連携が強くなった。</li> <li>※保護者への学校行事の参加を促すため、ホームページなどの情報発信の充実に努めていきたい。</li> </ul>	<p>第1回(6/22)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒との関わりを大切にしたい学校づくりをしていただきたい</li> <li>・みんなで何かをやり遂げることを教えてほしい</li> <li>・まめな声掛けなど継続して生徒を見守ってほしい</li> </ul> <p>第2回(10/26)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の居場所になるよう継続した指導をしていただきたい</li> <li>・多くの生徒が正規雇用で就職できるよう指導していただきたい</li> <li>・学校の良さを前面に出し生徒の居場所を確立していただきたい</li> </ul> <p>第3回(1/18)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が学校へ行きたいと思う指導を継続していただきたい。</li> <li>・継続してキャリア教育の充実に努めていただきたい。</li> <li>・「心の居場所づくり」を次年度以降も継続していただきたい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善への取組み ア わかる授業の推進と基礎学力の定着 イ 授業アンケートや学校教育自己診断を活用した授業改善の推進 ウ ICTを活用した研究授業による授業改善の推進 エ 校内検定大会や資格取得の奨励と支援	ア・個に応じた学習指導の徹底 ・モジュール授業を応用した授業（0限目の活用） イ・各分掌によるアンケートの分析、各教科の授業改善への立案。 ・教員全体の授業力向上のための授業振り返りシートの提出。 ウ ICT機器等を使用する授業数の増加 エ 校内検定大会を実施と資格取得の支援	ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率（平成28年度は65%）を68%にする。 イ・教員向け学校教育自己診断の項目「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率（平成28年度91%）を85%以上維持する。 ・振り返りシート全教員提出。 ウ・教員向け学校教育自己診断の項目「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定率（平成28年度67%）を70%以上にする。 エ・校内検定大会の実施と資格取得に挑戦する生徒の増員及びその合格率（平成28年度64%）を70%にする。	ア・「授業内容はわかりやすい」の肯定率68%（○） イ・「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」の肯定率95%（◎） ・振り返りシート全教員提出（○） ウ・「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定率85%（◎） エ・校内検定大会の実施、他の定時制にも校内検定大会を広げ、6校（1校棄権）で実施（◎） ・資格合格率66%（○） ・橋コンでは、H27年度全国1位、H28年度3位、H29年度も2位となり、AD系列の授業として良い結果が継続できた。（◎）
2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立	(1)社会の形成者としての自覚と忍耐力・責任感を養い、規範意識を身につけさせる。 ア キャリア教育の実施 (2)出身中学校との連携による中途退学・長期欠席の防止および原級留置の減少 ア 不登校生徒への働きかけや保護者との連携強化	ア・通用門での毎時間の立番を設け、あいさつ運動や声掛けを実施。 ・地域での清掃活動などを通して社会人としてのマナーや規範意識を養う。 ・キャリア教育、志学、道徳、人権教育を総合的に行うための校内研修の充実を図る。 ・系統立てたキャリア教育計画を再構築する。総合的な学習の時間やホームルール活動の充実を図る指導計画を立案する。 ア・出身中学校、前籍校との連携 ・保護者等懇談、家庭訪問等による情報共有の増加を図る。 ・入学生の出身中学校訪問や前籍校訪問による早期の生徒理解 ・長欠生徒等に対する粘り強い指導とその指導力の向上 ・SC、SSW、教職員の情報を共有するためのケース会議を強化する。	ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率（平成28年度75%）75%を維持する。 ・卒業時の進路未決定者（平成28年度進路未決定者0人）を引き続き0人をめざす。 ・地域清掃年3回以上 ア・生徒指導的中学校訪問数（平成28年度42校）40校程度を維持する。 ・家庭訪問回数（平成28年度58回）50回程度を維持する。 ・新入学生の進級率（平成28年度68%）60%以上を維持する。 ・出席率を平均60%以上（平成28年度66%）を維持する。 ・ケース会議の開催数（平成28年度52回）50回程度（SC、SSW不在時でケース会議は実施する。また、管理職と教職員との報連相を密にする。）	ア・「将来の仕事について先生と話したことがある」の肯定率73%、やや減少であるが、概ね良好である。（○） ・卒業時の進路未決定者0人（○） ・地域清掃年3回実施（○） ア・生徒指導的中学校訪問数40校（○） ・家庭訪問回数89回（○） ・入学生の進級率64%（○） ・全学年出席率平均79%（◎）となり、この3年間で一番高かった。 ・ケース会議開催数は述べ54回でSCまたはSSWとのケース会議についても述べ53回、計107回となり、教員の相談の増加による。（◎） ・管理職と教職員との速やかな報連相意識の定着（○）
3 安全安心で魅力ある学校づくり	(1)生徒の居場所づくりと個々の生徒への支援体制の強化 ア 教育相談体制の確立 イ 個に応じた支援体制のさらなる充実と外部人材の活用 ウ 交通安全や薬物乱用防止、防災・防犯教育の充実を図る。 (2)特別活動等を通じた生徒の自己有用感の醸成と、集団への帰属意識の向上 ア 部活動の活性化に向けた取組みの推進 イ 体育大会や文化祭等の行事の活性化 (3)学校運営上で必要な情報を共有する。 ア 職員会議以外でも連絡会等を適宜実施する。	ア・生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との人間関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。 ・ケース会議などを通じて生徒情報の共有を図る。 イ・支援コーディネーターを中心にSC、SSW、教職員、保護者の四者が有機的に連携協力できる体制づくり。 ・教員が支援教育やコミュニケーション能力を向上するための外部人材活用および校外研修へ参加させる。 ウ・地域の公的機関等の外部人材を活用した生徒への研修や講義を実施する。 ア・部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動の集団行動、仲間意識等の大切さを理解させる。 イ・行事等を通して、自主自立の精神を養うとともに達成感を持つことにより、自己肯定感を高める。	ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率（平成28年度は67%）を70%以上にする。 ・教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率（平成28年度は57%）を65%以上にする。 イ・外部人材のSC、SSWが来校していない日でも教員が教育相談を受ける体制（窓口）を維持するため、全教員に教育相談窓口の係を割り当てる。（平成28年度と同様に維持する。） ・教員向けの外部研修に参加させる人数（平成28年度述べ35人）を述べ30人程度を維持する。 ウ・警察や消防署、区役所等との連携を年3回実施する。 ア・生徒向け学校教育自己診断の項目「参加しようと思うクラブがある。」の肯定率（平成28年度は60%）を65%以上とする。 イ・生徒向け学校教育自己診断の項目「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率（平成28年度は64%）を65%以上とする。 ア・教員向け学校教育自己診断の項目「職員会議をはじめ各種会議が教員の間で意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」の肯定率（平成28年度47.4%）、60%以上を維持する。	ア・「悩みや相談にのってくれる先生がいる」の肯定率75%（◎） ・「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率85%（◎） イ・教員が教育相談を受ける体制（窓口）を維持するため、全教員が教育相談窓口担当の意識の定着（○） ・教員向けの外部研修に参加させる人数46人（○） ウ・警察や消防署、区役所等との連携年間計6回実施（◎） ア・「参加しようと思うクラブがある。」の肯定率61%（○） イ・「体育祭や文化祭が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率68%（○） ア・「職員会議、連絡会、情報共有会議など教職員間の意思疎通や意見交換、情報共有の場として有効に機能している」の肯定率60%（○）